


休校

令和3年

7月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

学校の中と外で

校長 渡辺 明

6月10日(木)に、2年生が茨城県立自然博物館へ出かけました。

このように書くシンプルで、当たり前のように書き出しのようですが、この一文には今までと違った重みがあります。コロナ禍のため、この当たり前が当たり前でない期間が、ほぼ1年半にわたって続いてきたからです。昨年度は修学旅行をはじめとする校外学習が軒並み中止となり、実施できたのは徒歩圏内のものだけでした。

「学校の中の約束は外でも守る」のが校外学習のルールです。感染対策のため見学中もマスクを着用して活動しました。また、補助席を含めると40席あるバスでしたが1クラス1台として、定員の半数ほどの乗車率を保ちました。実際には車内の換気は十分なのですが、子どもたちが日頃学校生活で意識しているソーシャルディスタンスを大切にして活動するためです。

子どもたちは広々とした草原で走り回って遊び、互いに距離をとりながらお弁当を食べ、午後は博物館の展示物に目を輝かせていました。館内には実物大の恐竜の動く模型などがあり、夢中になって見入っている子や、怖がってなかなか近づけない子など、反応も様々でした。見学時間がそれなりの長さだったので、2年生ということもあって時間を持て余してしまうかと思いましたが、子どもたちにとって充実した時間になったようです。

また、私が驚いたのは、「遠足をやってくれてありがとうございました。」といった主旨の言葉を、直接伝えてくれた子が何人もいたことです。この2年生は、本来ならば昨年度は動物園への遠足を体験しているはずでした。しかし、それが実現できず、今回が初めてのバスに乗ってのお出かけです。「去年はできなかったことが、今年はできた」という子どもなりの喜びが、そのような言葉になったのでしょうか。遠足の最後に、「皆さんが楽しい一日を過ごせたのは、お家の方々協力してくださったおかげです。帰ったら遠足のお話をいっぱいして、ありがとうございます。」といった話をするのはよくありますが、今年の「ありがとう」はこれまでと違う感情も含まれているようです。この「ありがとう」の裏側から、日頃のがまんを感じ取れて、切ない気持ちにもなります。



館内で展示物を見る子どもたち

学校行事を通して子どもたちがどれほど成長するかを、私たちは経験で知っています。教室だけでは経験できないこと、一人だけでは学べないことがたくさんあります。感染予防のためまだまだ油断できない状況が続いていますが、さいたま市では5年生の自然の教室が始まっています。宿泊定員の5割を目安にして、密を避けての実施です。既に実施した学校の話では、施設の運用も含めて、現地の指導員の心配りは相当に細やかだったそうです。また、春運動会の学校も多数あります。児童数や施設などの違いもあり、開催のスタイルは様々です。ある学校におけるベストプランが、他の学校にそのまま当てはまらないことや、暑くなってきて感染予防と熱中症予防のバランスを取らなければならないのも難しいところです。今後も状況を見定めながら、子どもたちのためにできることに取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

6月12日(土)には、大宮北小ダディーズクラブのご協力でプール清掃を行いました。当日は学校公開を自粛したこともあり、参加者は少ないのではと心配していましたが、お父さん方だけでなく、お母さん方も大勢参加していただきました。また、地域の方々も含めて、大勢の大人が子どもたちのために力を合わせてくださる一体感をありがたく感じました。お陰様で予定通りのプール開きができました。改めて感謝申し上げます。